

「なぜ働くのか？」

2016年4月16日(土)

カフェミヤマ渋谷公園通り店 [1号室]

参加：14名

司会・文責：堀越

1. 概要：

- ・初参加者3名を含む総勢14名で、主に、働くとはどういうことか、働く際に受け取るお金の意味は何か、働く目的はお金だけなのか、という3つについて考え、対話を深めました。

2. 対話：

(0) 問いの提起

- ・進行役より、新年度の開始に当たり、なぜ働くのか、働くことの目的を考えてみたいと問いを提起した。

(1) 働くとはどういうことか？

- ・なんだかんだ言っても生きる上ではお金が要る。だからお金を得ることが目的ではないか。
- ・以下2つのケースのようにお金を得ることだけで定義はできない。これら働くことと考える人もいる。
 - a) 専業主婦は、外からお金を得ていないが、働いていないのか。
 - b) 農業等を行って一人だけで生きている自給自足の生活の場合でも、その農業は働くではないのか。
- ・そうすると、働くとは生きるために絶対に必要な活動と言えないか。
- そういう条件が必要だと思う。だが、それだけでは、例えば排泄行為も生きるために絶対必要な活動であるが、それを働くとは言えないように思えるので、他にも条件が必要そうである。
- ・他人のためになる活動という意味が必要であり、働くこととは条件ではないか。

(2) 働くことで得るお金の持つ意味について

- ・やはりお金を得る場合とそうでない場合とでは、何かその価値か意味のようなものが違うように思う。
- ・そのことが好きで働いている場合もあるが、やはり得るお金とのバランスが大事であり、お金が少ないと続けることが難しい。例として、アニメーターは、個人事業主として契約し法定最低賃金を無視したような薄給で働いている人もいるが、やはり生活を続けることが難しく辞める場合があると聞く。
- ・バランスが取れるという場合は、お金もそこそこ得られ、かつ、健康な状態を保てる場合であり、それは言い替えると、幸せな状態と呼べる。
- ・お金は最終目標ではない。例えば、今度米国へ旅行に行きたい、または、あの有名店のフランス料理を食べたい等の生活上の欲求を満たしたいからであり、生活上のやりたいことをやれることが目的である。

(3) 外(=世間・社会)からの視線について

- ・なんとなく働かないといけな、または、働いた方がいい、と思える。何もしないまま職業欄に空欄は嫌だし、何かを書きたい。それは、世間から白い眼で見られる、軽蔑されると思うからかもしれない。

(4) やりたいこと自体が働くことである集合 vs 他人が価値を認めることが働くことである集合

- ・他人が価値を認めることを対象にする「働く集合A」と自分がやりたいことを対象にする「働く集合B」があり、両者は重なる場合と、そうでない場合がある。重なる場合は、やりたいことでお金を得られる。
- ・この関係において、自分のやりたいことがやれたり、得られるお金がそこそこあり健康状態を保てたりするかどうかで、幸せな状態になるかどうかが決まる。

(5) 再び得るお金の意味について

- ・10億円を持っていたら、働くことの意味が変わるように思う。その場合は、何もやらないのではなく、やりたいことをやるだろうし、それをやるために働く場合もある。
- ・働くことで他人と関わりたい、そのことによって、生き甲斐や充足感が得られるという場合がある。
- ・株のデイトレーダーのように人と関わらずに、お金を稼ぐ働くこともある。だから、働くことはお金を得るという考えで良いと思う。他人との関わりは、働くこと以外で他に何かをやれば良い。

(6) やりたいこと vs 働くことの関係について

- ・数学の真理を一人で探求する研究者のように、自分のやりたいことを一人でやっている場合を考えると、どうも働いていると考えることに抵抗がある。
- ・ボランティアや社会貢献をしているときの行為が働くこととは思えない。

(7) 労働意識、義務感、負担について

- ・やりたいことをやっている場合にそれが働くことであるかどうかは、そこに労働意識があるかどうかで決まるのではないか。だが、最後は、日本国という枠組みで考える限り、納税から逃れることはできず、それはお金の払うことが決まっているため、自給自足は働くではないと思う。
- ・その行為に義務感を抱かずただ黙々と好きでやりたいことをやっているなら働くことではないが、社会的要請と別に義務感を抱いてやりたいことをやっているのなら働くことである。やりたいことをやっている数学研究者や役者が結果を出す義務感を抱いて評価を得ているなら、それは働くことである。
- ・会社で分業された一つを行うように社会的要請から義務感を抱く外発的義務(=義務感)と、例は少し特殊だがホームから落ちた人を助けるように社会的には何も要請がないが主観的にそれを義務とと思ってやるような内発的義務(=使命感)の2つがあるように思う。

→この内発的義務感を背負うことが生き甲斐や充足感と何か関係があるのではないかという疑問がある。

☆これまでの対話を踏まえ、働くことが何かは主観的な自己判断とする前提で、自分が10億円を持っていたら、それでも働くかどうかを問うと、半数が働く、半数が働かないという結果であった。

3. まとめ：

- ・最後に挙げた義務感が働くこととどういう関係なのかをもっと探求したかったが、ここで残念ながら時間切れとなった。この点は次の機会の対話で深めた。
- ・最後の10億円の思考実験アンケートは、何もしなくても生活できるとき、①何かをするかしないかで半々なのか、②働くことがお金を得ることかそうでないかで半々なのかのどちらかであるが、判然とはしない。

以上